

第6学年「社会」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果**
- 社会的事象に対する関心が高い。
 - 写真やグラフなどの資料から、社会的事象の背景を想像することができる。
 - 学習したことを、ポスターや新聞など様々な形で表現することができる。
- 課題**
- ▼ 学んだ社会的事象と自分たちの生活を結び付けることが難しい。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付け、社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養う。

具体的な改善策

- 自分たちの生活と直接結び付いている部分を確認しながら、社会的事象を捉える。
- 自分たちの生活と直接的には結び付いていない部分についても、どのようにめぐって自分たちの生活と関連するか想像し、考えを交流する機会を設ける。
- 学習したことがどんな場面で生かされるのかを考える場面を設定し、自分たちの日常と関連付ける。

達成目標

- 我が国の政治の考え方と仕組みや働き、先人の業績や優れた文化遺産、我が国と関係の深い国の生活やグローバル化する国際社会における我が国の役割について理解するとともに、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。